

学校給食センターの広域設置に係る検討状況について

1. これまでの経緯

室蘭市学校給食センター（昭和49年度供用開始）は、建設から50年近く経過し、今後20年以内に建替え等が必要となる他の公共施設とともに、令和4年度中に施設のあり方に関する基本的な方向性を取りまとめるとしていた。

登別市においても、学校給食センター（昭和41年度供用開始）の建設から50年以上が経過し老朽化が相当程度進んでおり、同様の課題を抱えていることから、これまで、両市による同センターの広域設置の可能性に関し、両市教育委員会において共同で検討を行ってきた。

2. コスト比較について

下記に示す算定条件に基づき、各市がそれぞれ単独設置した場合と、両市が広域設置した場合のコスト比較を行ったところ、建設費及び運営費ともに、単独設置よりも広域設置の方が安価になることが確認された。

(1) 単独設置の場合

	室蘭市(ア)	登別市(イ)	合計(ウ)
建設費 <sup>※1</sup>	42億円	29億円	71億円
利子負担	5億円	3億円	8億円
運営費(25年) <sup>※2</sup>	73億円	49億円	122億円
合計①	120億円	81億円	201億円
国庫補助金②	3億円	2億円	5億円
①-②	117億円	79億円	196億円

(2) 広域設置の場合（一部事務組合等）

	室蘭市 負担(ア) <sup>※3</sup>	登別市 負担(イ) <sup>※3</sup>	合計(ウ) <sup>ウ'</sup>	室蘭市 (ア)-(ア')	登別市 (イ)-(イ')	合計 (ウ)-(ウ')
建設費 <sup>※1</sup>	35億円	21億円	56億円	▲7億円	▲8億円	▲15億円
利子負担	4億円	2億円	6億円	▲1億円	▲1億円	▲2億円
運営費(25年) <sup>※2</sup>	68億円	41億円	109億円	▲5億円	▲8億円	▲13億円
合計①	107億円	64億円	171億円	▲13億円	▲17億円	▲30億円
国庫補助金②	3億円	2億円	5億円	—	—	—
①-②	104億円	62億円	166億円	▲13億円	▲17億円	▲30億円

※1…現施設の解体費は除く。 ※2…賄材料費（給食費と相殺）は除く。

※3…両市の児童・生徒数により按分した場合。（広域設置時の）実際の各市の負担額については、均等割の導入も含め、広域設置決定までに、両市でそのあり方を協議する。

※上記は事業者への聞き取り等に基づく概算額であり、運営方法等を検討・協議していく中で変動することがある。

### (3) 算定条件

- 【食 数】室蘭市 5,000 食／登別市 3,000 食
- 【施設規模】単独設置 室蘭市：3,800 m<sup>2</sup>程度（延床面積）  
登別市：2,600 m<sup>2</sup>程度（延床面積）  
広域設置 5,000 m<sup>2</sup>程度（延床面積）
- 【調理設備】提供食数に基づき必要な設備を想定
- 【運営規模】提供食数や施設規模等に基づき人員や直接経費を想定
- 【その他】学校給食衛生基準を満たすことを基本に、施設規模や人員配置を想定

### 3. 建設地について

両市の域内であれば、搬送車両の増便や搬送ルート工夫により、いずれの場所でも調理後 2 時間以内の喫食が可能であり、且つ運送費にも大きな影響が認められなかった。

具体的な建設地については、建築基準法における用途地域の建築制限、周辺環境への影響など様々な観点を考慮し、今後、両市で考え得る候補地の中から、選定を行う。

### 4 今後の方向性について

コスト比較の結果、各市が単独で設置するよりも広域設置の方が、財政的優位性が高いことが確認された。また、広域による運営となった場合でも、学校給食における地産地消の取組等を継続できると考えられることから、今後、学校給食センターを広域設置する方向で検討を進める。

設置時期については、令和 11 年度を目途に進めていく。また、設置場所や設置・運営方式、両市の負担のあり方などについては、今後、より詳細な試算等を行う中で検討を進めることとする。